

STUDENT VOICES PROJECT

学生の声プロジェクト

AY2023



PROPOSAL TO THE UNIVERSITY

大学への提言書

はじめに

立命館アジア太平洋大学 関係者各位

学生の声プロジェクト 2023 を代表してご挨拶申し上げます。
APUは、比類ない多国籍・多文化環境であり、このような環境において、学生がこれからの大学に何を求めるか、どのような変化を期待するかという点でも、今回のプロジェクトは大きな意味を持つものであったように思います。こうした背景を踏まえ、我々プロジェクトメンバーは、寄せられた意見を丁寧に分析し、提言を作成しました。本提言書が学生の大学生活をより良いものとする一助となれば幸いです。

また、本プロジェクトにご協力いただいた学生の皆様に心から感謝申し上げます。
Moodleやアンケートを通じて頂戴した貴重なご意見は、キャンパス生活の質の向上に大変有意義な示唆をいただいたものと考えております。

本プロジェクトを通じて集約された学生の声は、授業内容の充実化を始め、キャンパスの利便性向上、学習環境の整備など、大学生活を豊かにするための様々な提案がなされております。これらはAPU2030ビジョンである「グローバル・ラーニング・コミュニティ」の実現に大変有益なものと確信いたしております。
本プロジェクトから生まれた提案事項を真摯にご検討いただき、より良い大学づくりに向けて実現可能なものから順次ご対応を賜れますと幸甚に存じます。学生一人ひとりの意見に耳を傾け、大学運営に反映させていただけますことを切にお願い申し上げます。

末筆ながら、本プロジェクトにご尽力いただいた全ての関係者に、この場を借りて御礼申し上げます。

敬具

学生の声プロジェクト2023 学生メンバー 一同

目次

提案の概要	4
1. APUウェブサイトにおける奨学金基準の透明性向上	5
2. APU Zoomアカウントへの学外関係者のアクセスの許可	6
3. カフェテリアの食事の品質と価格への対応	7
4. APU発着の大分交通バスサービスの拡充	8
5. Off-campus Study Program参加への経済的支援の増加	10
6. 反対言語基準クラスでの学習経験の向上	13
7. APUキャンパスにおける給水器の増設	15
2023年度学生の声プロジェクト - チームメンバー	17

提案の概要

以下の提案は、Moodleでの意見収集と様々な議論を通じて選定された、学生生活や学習環境に関する7つの重要な課題に対する解決策です。

提案は次のとおりです。

1. APUウェブサイトにおける奨学金基準の透明性向上
2. APU Zoomアカウントへの学外関係者のアクセスの許可
3. カフェテリアの食事の品質と価格への対応
4. APU発着の大分交通バスサービスの拡充
5. Off-campus Study Program参加への経済的支援の増加
6. 反対言語基準クラスでの学習経験の向上
7. APUキャンパスにおける給水器の増設

各提案は以下の3つのポイントで構成されています。

1. 問題意識（問題に関する背景情報の提供）
2. 解決案（問題に最も現実的かつ効果的に対処するための解決策の提案）
3. 期待される効果（学生とAPUの両方の観点から、提案された解決策が現在の状況に、どのようにプラスの影響を与える可能性があるかの説明）

1. APUウェブサイトにおける奨学金基準の透明性向上

問題意識

APUの授業料減免奨学金授与には、透明性に関する懸念があります。多くの学生が、奨学金受給者の選考基準について困惑し、混乱や不満を募らせています。特に、成績優秀な学生にとっては、成績があまり良くないと思われる同級生が、より多額の学資援助を受けていると感じ、落胆することがあります。

この問題に関するMoodleでの投稿：

「友人から聞いた話では、申請時に課外活動にあまり参加していなかったにもかかわらず、私より高い奨学金をもらっていたそうです。私は地域活動や学生団体など、たくさんの課外活動に参加していたので、少し不公平に感じました。学業と課外活動への参加で公平に判断されると思っていましたが、それは間違いで、少しがっかりしました。」

「APUがどのように日本学生支援機構の奨学金受給者を選んだのかよくわかりません。私は単身世帯の出身で、日本学生支援機構の奨学金もAPハウスでの無料居住プログラムも受けられませんでした。入試チームには、願書をしっかり審査して、奨学金を必要としている人たち、例えばひとり親家庭の人たちに奨学金を支給してほしいと思います。」

解決案

この問題に対処するため、授業料減免奨学金専用のウェブページに、包括的でわかりやすい説明を掲載することを提案します。そこでは、経済的な必要性、学業成績、課外活動への参加と実績、多様性への配慮（民族的／文化的背景など）など、選考プロセスで考慮される要素を明確に説明する必要があります。

APUは、奨学金選考のプロセスをわかりやすく説明することで、学生の中に公平感と信頼感を醸成し、成績優秀な学生に継続的な努力を促すと同時に、最も必要としている学生に必要な支援を提供することができます。

例：ハーバード大学奨学金ページより

「これらのほとんどは、必要性に基づいており、また、研究分野、民族的／文化的背景、地域、または高校／大学での関係に関連する賞の優遇措置があります。」

*<https://www.gse.harvard.edu/admissions-and-aid/financial-aid/learn-about-aid/fellowships-grants/harvard-restricted>

期待される効果

APUの奨学金制度の改善案は、いくつかの重要な点において、APUのコミュニティにポジティブな影響を与える可能性があります。第一に、奨学金授与プロセスの透明性が向上することで、学生間の混乱が解消され、公平感が醸成されます。特に、入学を検討している学生にとっては、奨学金支給基準が明確になることで、十分な情報を得た上でAPUでの教育を受けるかどうかを判断できるようになります。

2. APU Zoomアカウントへの学外関係者のアクセスの許可

問題意識

現在、APUのZoomアカウントは大学関係者にアクセスを制限しており、APU以外の参加者はこのアカウントで開催される会議に参加することができません。この制限は、以下のような様々な活動にZoomを活用している学生団体にとって大きな障害となっています。

- APU外からのゲスト講義やワークショップの開催
- 国際的な共同プロジェクトやイベントの開催
- 卒業生や国際コミュニティとの交流

この問題に関するMoodleでの投稿：

「私は学内のインカレサークルに所属しているので、他大学の方とZoomをする際に自分の大学のZoomが使えないのが不便です。他の大学のZoomは誰でも使えるのに、なぜAPUのZoomは使えないのですか？APU以外の人にも入れるようにしてほしいです。」

「ZoomミーティングはAPUのメールを持っているユーザーしかアクセスできないため、APU生は他大学の学生とZoom越しで交流することができません。APUは比較的小さな大学なので、世界中の優秀な大学や学生とつながるイニシアティブが必要なのです。私がAPUに入学する際に設定した目標の一つは、母国の学生と協力することでした。しかし、ミーティングではいつもAPUが提供するZoomではなく、彼らの大学が提供するZoomを使っています。APUの学生が、組織や大会の準備など個人的なプロジェクトやその他の学習の機会で、Zoomミーティングを開催できるようになることを願っています。」

APUの学生団体による実際の事例：

- インターナショナル・オンライン・ケース・コンペティション (IOCC)：APUのグローバル・ケース・コンペティションは、Zoomを利用したオンライン・コンペティションです。APUのZoomアカウントは、参加者を大学のEメールアドレスに限定しており、彼らのニーズには不十分でした。オンラインイベントを進めるために、主催者は自らの予算でZoomのプレミアムアカウントを追加購入することを余儀なくされ、予想外の財政負担を強いられました。
- TEDx APU：TEDx APUにとって、日本からのゲストスピーカーとのバーチャルミーティングの開催は非常に重要です。しかし、APUのZoomアカウントの制限により、このような重要な交流の調整が困難でした。オープンアクセスでないため、APUメンバー以外の個人のZoomアカウントに依存するか、すべてのミーティングをGoogle Meetsに移行するかという2つの選択肢に頼らざるを得ませんでした。どちらの選択肢も、イベントのプロフェッショナルなイメージや機能性を損なう可能性があるという欠点がありました。

解決案とその期待される効果

APU ZoomをAPU以外の参加者にも開放することで、学生団体にとって技術的なハードルや経済的な負担が軽減され、グローバルな視野と多様な視点を持った包括的なイベントを開催することが可能になります。また、APUの国際化への取り組みをアピールすることができます。

3. カフェテリアの食事の品質と価格への対応

問題意識

現在のカフェテリアのメニューは、ベジタリアンやビーガン向けのメニューが不十分であることからわかるように、包括性の欠如が懸念されます。これは、提供される料理の質と量の低下とは対照的な、最近の物価の高騰によってさらに悪化しています。例えば、タイカレーは味の質が低下し、ナスは手に入らず、フライドチキンは値上がりしています。

Moodleやソーシャルメディアを通じて実施されたアンケートでは、カフェテリアの現状に対する不満が広く示されており、この状況は早急かつ効果的な解決策を必要とする重大な問題であることが浮き彫りになっています。

注目すべきは、2021年度学生の声プロジェクトでも同様の懸念が挙げられており、この課題の根強い性質が浮き彫りになっていることです。

解決案

- 定食の導入：バラエティに富み、かつバランスの取れたランチを求める生徒の嗜好に応える、便利でお得な組み合わせの定食です。
- ビーガン・ベジタリアンメニューの充実：植物性食品をメニューに取り入れることで、食事制限や倫理的嗜好に対応し、より多様性のある食事環境を提供します。
- 食材レパートリーの増加：より豊富なメニューを提供することで、学生の欲求をさらに満たし、多様な料理の選択肢を探索するよう促すことができます。

期待される効果

- 学生と教職員の満足度の向上：様々な食事ニーズや嗜好に合わせた多様で手頃なメニューは、よりポジティブな食事体験に貢献し、キャンパス全体の満足度を高めます。
- 栄養バランスと食事の包括性：すべての学生に栄養価の高い食事を提供しながら、ビーガンやベジタリアンの選択肢を広げることで、健康を促進し、より包括的なキャンパス環境を育みます。
- コストパフォーマンス：ご飯の一人前や手頃なおかずなど、予算に見合った選択肢を導入することで、学生にお得な食事を提供するというコミットメントを示すことができます。

事例：早稲田大学（WU）

- 早稲田大学では、カレーセット（中）が180円とリーズナブルです。また、ご飯の単品も52円から用意されており、学生の好みや食事のニーズに応じて食事をカスタマイズすることができます。
- また、100円以下のおかずも充実しており、「ごぼうと鶏肉の炒め物」「ほうれん草とナスのごま和え」「大根とほうれん草のおひたし」などがあります。
- 朝食には、カレー、ナン、豆料理、リンゴスライス、ヨーグルトドリンクがセットになった「50円朝食」を提供しています。

4. APU発着の大分交通バスサービスの拡充

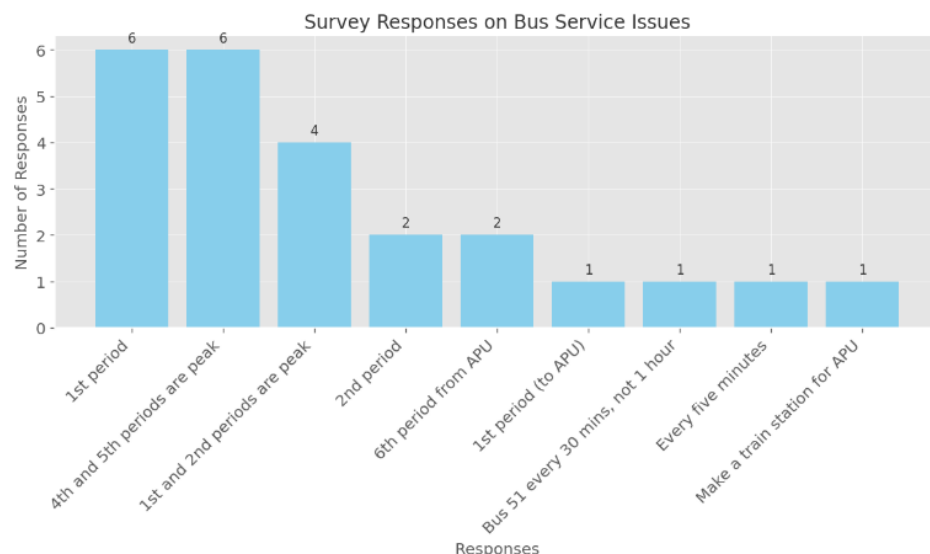
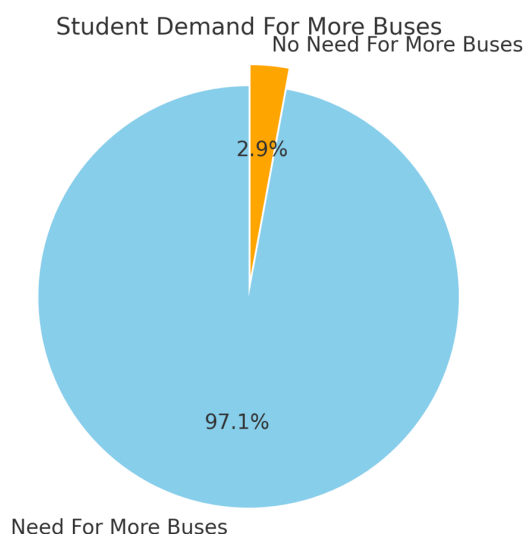
問題意識

大分交通バスの現状、特に50番と51番（特に50番路線）は、APUコミュニティにとって大きな懸念材料となっています。私たちの学生の声プロジェクトでは、ソーシャルメディアやMoodleでアンケートを実施し、膨大なデータを収集しました。その結果、大きな懸念が浮かび上がりました。

アンケート調査

- 2023年12月、APUの非常に活発な学生を対象に、Instagram上でアンケートを実施しました。合計105名の学生が参加し、98%の学生が「大分交通のバスを増やすべきだと思いますか？」という質問に肯定的な回答をしました。バスの増便が必要だと答えた学生には、その必要性が最も高い時間帯や路線を具体的に尋ねました。注目すべきは、15～24人の学生がピーク時の混雑について明確に回答していたことです。具体的には、1・2時限目（別府駅発APU行き）と5・6時限目（APU発）です。

アンケートでは、ピーク時、特に1・2時限目（別府駅からAPUまで）、5・6時限目（APU出発）の混雑が懸念されていることが明らかになりました。特に、15～24人の学生がこれらの時間帯について明確に言及し、これらの重要な時間帯における過密と長い待ち時間の問題を強調していました。



解決案

APUコミュニティが経験する交通の課題に効果的に対処するため、以下の戦略的変更を提案します。

- バスの本数の増加：ピーク時、50番と51番、特に1、2、5、6時限目の運行本数を2倍に増やします。例えば、現在午前9時に2本のバスが運行されている場合、これを4本に増やすことで、過密状態と待ち時間を大幅に減らすことができます。
- 収容人数の大きい車両の使用：過密状態をさらに緩和し、乗客の快適性を向上させるため、特にピーク時には、小型バスを大容量の車両に置き換えることを検討します。

期待される効果

これらの改革案を実施することで、APUコミュニティに様々な好影響をもたらすことが期待されます。

- 毎日の通学・通勤の向上：バスの運行本数と定員が増えることで、学生や教職員はより快適で効率的、信頼性の高い通学・通勤が可能になります。これにより、ストレスが軽減され、時間厳守が改善されます。
- QOLの向上：日々の移動にかかる負担を軽減することで、APUコミュニティの生活の質全体にも良い影響を与えることが期待されます。より効率的で快適な通学・通勤は、学習や職場環境を改善し、学生や教職員の幸福を促進します。

5. Off-campus Study Program参加への経済的支援の増加

問題意識

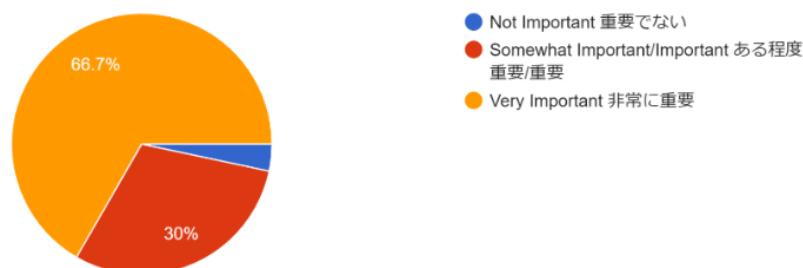
APUは、多様な海外交換留学（短期・長期）を含む豊富なOff-campus Study Programを提供しているにもかかわらず、経済的な障壁が学生の文化体験への参加を妨げているという重大な課題に直面しています。Moodleフォーラムや専用アンケートを通じて集められた調査データは、明確な姿を描き出しています。

Moodleフォーラムでの代表的な学生の声は、「予算に見合った」交流プログラムの必要性を強調しています。さらに、96.7%という驚異的な割合の学生が、Off-campus Study Programは多文化理解を深める上で非常に重要であると考えており、100%の学生が、Off-campus Study ProgramはAPUでの学業をより充実したものにしてくれると考えていることが明らかになりました。このデータは、APUの学生生活におけるプログラムの重要性を裏付けています。しかし、63.3%の学生が高額な費用を理由に参加しないと回答しており、プログラムの費用や料金に対する懸念が高まっていることが明らかになりました。

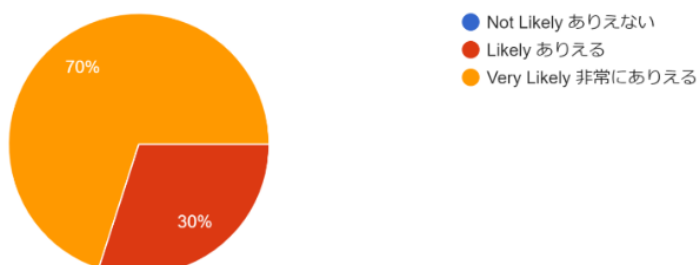
明らかになった課題

プログラム費用の高さは、多くの学生にとって大きな抑止力となっており、応募する意欲を削いでいます。政府や地元の団体が提供する奨学金制度は、ある程度の援助を提供することはできますが、誰もが利用できるものではありません。APUからの直接的な資金援助がないことは、このような貴重なプログラムへの参加を熱望する多くの学生にとって、経済的な障壁をさらに悪化させています。

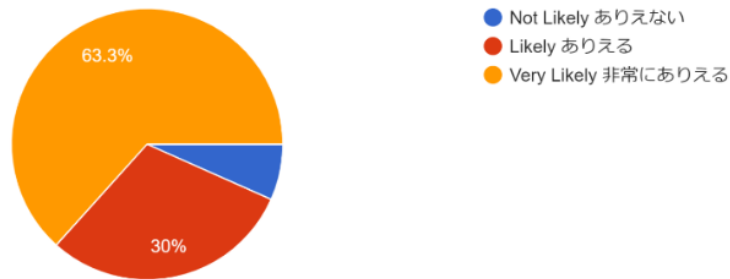
How likely do you consider Off-Campus Programs important for multicultural understanding? 多文化理解にとってオフキャンパスプログラムが重要であるとどの程度考えていますか?
30 responses



How likely do you to consider Off-Campus Programs will enhance your academic experience at APU? オフキャンパスプログラムがAPUでの学業経験を向上させるとどの程度考えていますか?
30 responses



How likely are you to not take part in Off-Campus Programs due to high expense? 費用が高いため、学外プログラムに参加しない可能性はどの程度ありますか?
30 responses



解決案

学生のOff-campus Study Programへの参加を促し、多文化体験を充実させるため、予算上の制約を考慮した上で、調査結果に基づき以下の解決策を提案します。

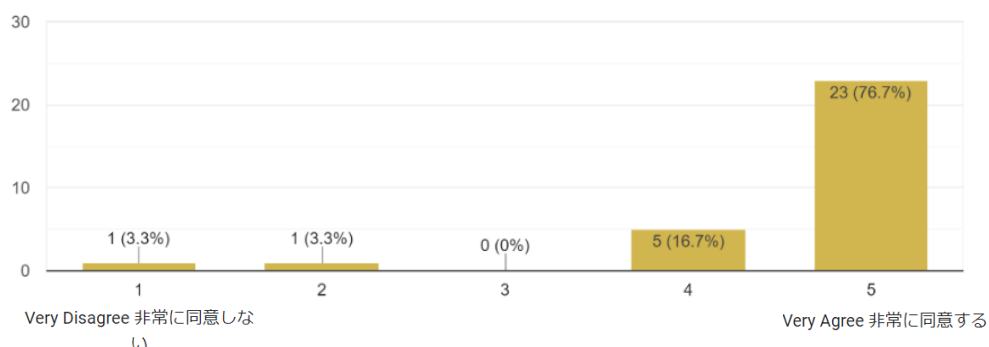
1. 功績（能力）に基づく奨学金：学業成績（GPAなど）や課外活動への参加状況に応じて支給される、Off-campus Study Program専用の奨学金を創設します。アンケートの結果、回答者の100%がこのような奨学金は「やや必要」「必要」「非常に必要」と認識していることが明らかになりました。APUは、経済的な支援を受ける価値のある学生を評価することで、参加への大きな障壁に直接取り組むことができます。

How necessary do you think to have a specific scholarship for Off-Campus Programs? 学外プログラムのための特定の奨学金はどの程度必要だと思いますか?
30 responses



2. Off-campus Study Program専用基金：Off-campus Study Programに参加する学生に的を絞った経済的支援を提供するための専用基金を設立します。この基金は、低所得世帯の学生など、経済的な必要性が実証された学生に対し、返済不要の補助金や特別無利子ローンを提供することができます。回答者の93.4%がこのコンセプトを支持しているという調査結果は、このようなプログラムに対する強い要望を裏付けています。

To what extent do you agree to have a fund for Off-Campus Programs? 学外プログラムのための基金を持つことにどの程度同意しますか?
30 responses



期待される効果

APUは国際的な大学として、多様な海外留学（交換留学、冬休み・夏休みの短期留学）や海外派遣プログラム（SEND、FIRST、SECONDなど）をはじめとする特徴的なOff-campus Study Programに誇りを持っています。これらのプログラムは、学生が視野を広げ、多文化理解を深め、適応能力を磨くための重要な窓口を提供するものであり、APU2030ビジョンの「世界を変える」人に準拠するものです。提案された解決策を実施することで、経済的な制約にかかわらず、より多くの学生がこうした変革的な体験に参加できるようになります。このような参加機会の拡大は、学生一人ひとりの人生を豊かにするだけでなく、APUの名声を高め、世界各地の協定校や教育機関とのより深い相互利益の結びつきを促進します。

6. 反対言語基準クラスでの学習経験の向上

問題意識

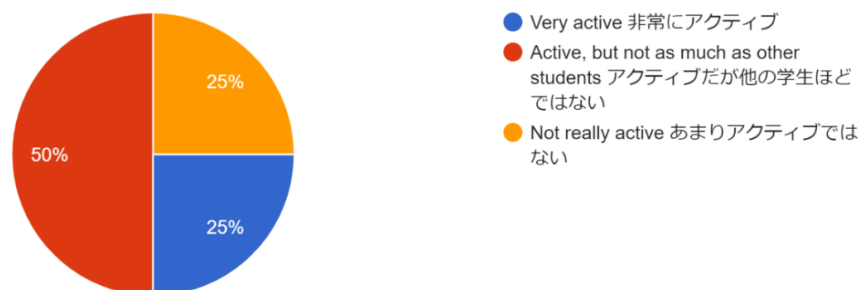
APUでは、特に日本語基準の学生にとって、必修単位取得の必要性が高いため、反対言語による授業履修が一般的になっています。日本語基準の学生が、十分な英語力を身につけることなく英語基準の授業に参加することは、共同活動や課題の遂行に支障をきたしています。このような状況は、学生の総合的な学習や学業成績に関わる問題につながっています。

調査による洞察

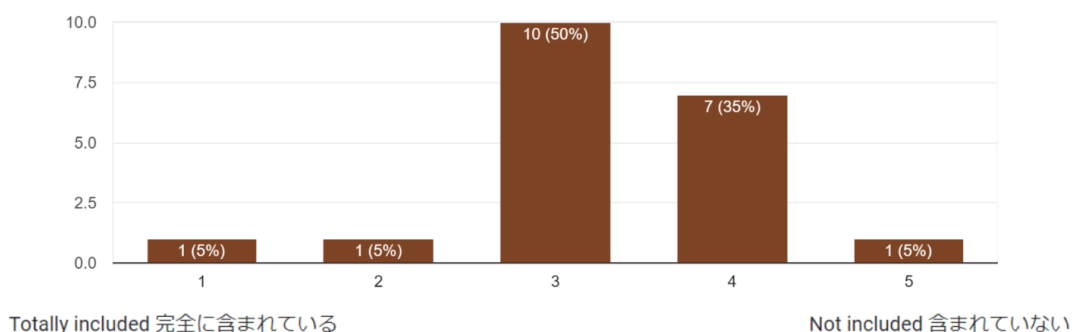
学生の経験についてより深い洞察を得るため、アンケートを実施しました。実際の授業がキャンパスターミナルのシラバスの記述と所々しか一致していなかったと回答した75%の回答者全員が、授業は予想以上に難しかったと回答しました。

さらに、授業中の活動やグループディスカッションに非常に積極的に参加したと答えた学生は33.3%にすぎず、41.7%は中程度の参加だったと回答しています。最も憂慮すべきことに、88.3%という驚異的な数の学生が、教室で異言語を話す同級生と一緒にいることを十分に感じられなかったと回答しています。

How active do you think you are during in-class activities or in-person group discussions? クラス内での活動やグループ...中、自分はどのくらい活発に活動していると思いますか?
20 responses



To what extent do you feel included with the opposite language-based students? 逆の言語を使用する生徒たちにどの程度含まれていると感じますか?
20 responses



特定された課題

現在のコース構成では、クラスを3つの言語ベースに分けています。英語（E）、日本語（J）、英語/日本語（E/J、日本語基準学生も履修可）です。日本語基準の学生は、専攻科目のうち英語基準科目を20単位履修しなければなりません。日本語基準の学生が英語開講の授業に参加することは困難です。キャンパスターミナルにはシラバスで授業内容の説明が掲載されていますが、実際の授業内容は言語基準が異なる学生には理解できないことがあります。これらは、授業中のディスカッションにおいて特に顕著であり、学生の参加を制限し、授業への参加意識を妨げています。

解決案

反対言語基準クラスにおける学生の学習を向上させるため、コースカリキュラム情報提供の強化を提案します。

言語レベルの推奨を含める：既存の「言語基準」情報（E、J、E/J）と並行して、補完的な「言語レベル推奨」セクションを全学期時間割に統合します。これは、APUで標準化された語学クラスレベルに基づき、学生の実際の語学力レベルに合ったコースを選択するためのものです。例えば、「日本語中級」を修了した英語基準の学生には、「日本語基礎3」以上を必要とする日本語基準のコース、あるいは「日本語中級」レベルのコースを推薦することができます。アクセスしやすくするために、この情報は学期時間割とキャンパスターミナルのコースシラバスの両方に記載する必要があります。

成績評価方法 Method of grade evaluation	言語/ Lang.	配当セメ/Grade		
		APS	APM	ST
通常 / Letter Grades	J	5	5	5
通常 / Letter Grades	E	5	5	5
通常 / Letter Grades	E/J	3	3	3
通常 / Letter Grades	E	3	3	3
通常 / Letter Grades	J	5	5	5
通常 / Letter Grades	J	3	3	3
通常 / Letter Grades	E	5	5	5
通常 / Letter Grades	J	5	5	5
通常 / Letter Grades	E	1	1	1
通常 / Letter Grades	E	1	1	1
通常 / Letter Grades	J	1	1	1
通常 / Letter Grades	J	5	5	5
通常 / Letter Grades	E	5	5	5
通常 / Letter Grades	E/J	3	3	3



成績評価方法 Method of grade evaluation	言語/ Lang.	言語レベル Level of language	配当セメ/Grade		
			APS	APM	ST
通常 / Letter Grades	J	J Pre-advanced	5	5	5
通常 / Letter Grades	E	E Advanced 1B	5	5	5
通常 / Letter Grades	E/J		3	3	3
通常 / Letter Grades	E	E Upper-Inter B	3	3	3
通常 / Letter Grades	J	J Advanced	5	5	5
通常 / Letter Grades	J	J Pre-advanced	3	3	3
通常 / Letter Grades	E	E Advanced 1B	5	5	5
通常 / Letter Grades	J	J Advanced	5	5	5
通常 / Letter Grades	E	E Intermediate	1	1	1
通常 / Letter Grades	E	E Intermediate	1	1	1
通常 / Letter Grades	J	J Foundation 3	1	1	1
通常 / Letter Grades	J	J Advanced	5	5	5
通常 / Letter Grades	E	E Upper-Inter B	5	5	5
通常 / Letter Grades	E/J		3	3	3

画像:
2023年秋セメスター 時間割
(2023年度カリキュラム生対象科目)

画像: 推奨時刻表

期待される効果

APUはインクルーシブな環境づくりに力を入れています。各自の語学力に合ったコースを選択することで、クラスでのディスカッションへの参加を促進します。様々な国籍の学生が知識を交換し、多様な視点を持つことで、包括性が強化されるだけでなく、学習経験も豊かになり、APUの基本目標に直結します。

7. APUキャンパスにおける給水器の増設

問題意識

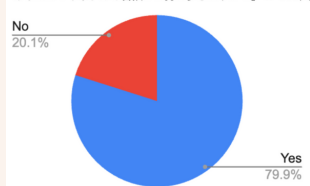
現在APUには給水器がD・E・F棟の3棟にのみ設置されています。一方、B棟、FII棟、H棟、J棟の4棟には設置されていません。特に講義が集中するFII棟とJ棟に給水器がないため、授業の休み時間にはF棟の給水器に行列ができることが多いです。F棟の給水器は2台で、その内ボトルに対応しているのは1台のみです。そのため、学生数に対して著しく不足しています。

Moodleのフォーラムでも、給水器の設置場所が限定的であることが学生からの大きな不満の1つとして挙げられました。今回独自で給水器についてのアンケートを学生に行いました。調査期間は12月27日から1月14日まででした。

アンケート結果

1

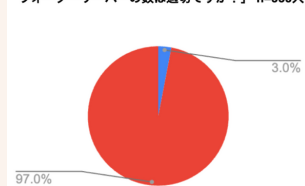
「あなたはマイボトルを普段から持ち歩きますか？」 n=333人



まず最初に、「あなたはマイボトルを普段から持ち歩きますか？」という質問を行った。その結果、333人が回答し、266人がYes、67人がNoという結果であった。約8割に上る人が持ち歩いているという結果で、給水器の需要が高いことがわかる。

2

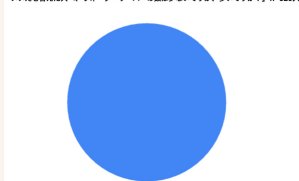
「ウォーターサーバーの数は適切ですか？」 n=333人



次に、「ウォーターサーバーの数は適切ですか？」という質問を行った。その結果、333人が回答し、適切であると回答した者は10人で、適切でないと回答した者は323人になった。

3

「いいえを答えた人へ、ウォーターサーバーの数は少ないですか、多いですか？」 n=25人

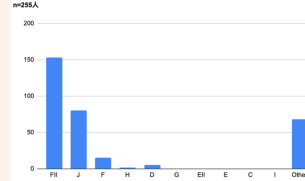


次の質問は適切でなかった場合、数は少ないですか、多いですかというものである。

その結果、全員が少ないと答えた。

4

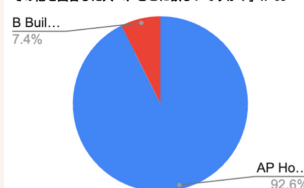
「何棟に給水器が欲しいですか？以下のチェックボックスから選んでください。(複数選択可能)」 n=255人



次に、何棟に給水器が欲しいか尋ねた。設問はキャンパスの事務棟を除く全ての棟その他である。そうした結果、FII棟が153人、J棟が80人、F棟が15人、D棟が5人、H棟が2人、その他が68人であった。

5

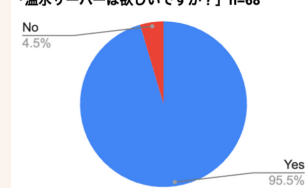
「その他を回答した人へ、どこに欲しいですか？」 n=68



その他を回答した人へ、どこに欲しいかを自由回答で求めた。その結果が以下である。その多くがAP Houseと回答されていた。(なお、APハウス1やAPハウス2、APハウスなど関連していたキーワードは全てAP Houseとカウントした。)

6

「温水サーバーは欲しいですか？」 n=68



最後に、給水器のみではなく温水の給水器も欲しいかどうか尋ねた。結果は、252人がいる、67人がいないという結果であった。

解決案

- **給水器の追加設置**：特に学生からの需要が高いFII棟とJ棟に給水器を追加設置。
- **全棟への均等な配置**：現在給水器が設置されていないB棟、FII棟、H棟、J棟にも給水器を設置し、利用可能な棟を増やす（特にFII・J棟を優先的に）。
- **ボトル対応給水器の増設**：約8割の学生がマイボトルを持ち歩いていることを考慮し、ボトルに対応した給水器の数を増やす。
- **温水提供給水器の導入**：温水の提供が可能な給水器も導入し、冷水だけでなく温水の需要にも対応する。
- **AP Houseへの設置**：「その他」として多く回答された、AP Houseにも給水器を設置することを検討する。

期待される効果

給水器の設置場所・台数が増えることにより、現在授業休憩時間に発生している、F棟の給水器付近での混雑が緩和され、スムーズに水分補給ができるようになることが期待されます。

加えて、ボトル対応給水器の増設により、学生の約8割が所持しているとのマイボトルへの給水がしやすくなり、学生の利便性が向上するものと考えられます。加えて、マイボトルの利用促進がごみ削減にも寄与する点は、大学の環境保全および社会的責任活動の一環としても意義深い取り組みであると考えられます。

以上の理由から、給水器の整備拡充が学生と大学の双方に多大なメリットをもたらす有効な施策であると考えます。前向きな検討を賜れますようお願い申し上げます。

2023年度 学生の声プロジェクト チームメンバー



Sherly Budiman
APM 4年生
インドネシア



Yakhyaeva Gulnora
APM 3年生
ウズベキスタン



Tran Ngoc Nhi
APS 3年生
ベトナム



Abid Aziz
APS 3年生
バングラデシュ



Mizuno Shigeharu
APM 2年生
日本



TATEYAMA
Hirokuni
プロジェクト
スーパーバイザー